

すてきな人とき 10

鹿児島大学助教授 東英寿さん

「中国には55の少数民族が存在しており、履歴書に民族の項目があるんですよ」と、鹿児島大学で中国文学を教えている東英寿さん。少数民族は中国の人口の6%ほどだが、大学では少数民族を受け入れる枠も設けており、保護政策がとられているという。

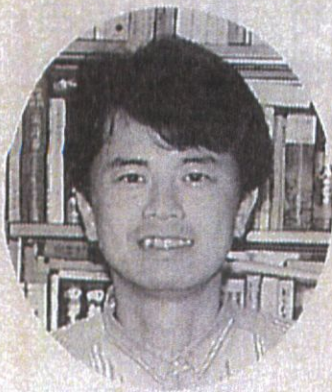
福岡市出身の東さんが中国にひかれたのは、大学3年の時、上海に短期留学したのがきっかけ。向こう岸が見えない長江(揚子江)と、

山がなく平原続きの大地に、スケールの違いを感じた。

九州大学の大学院を卒業した後、5年前に鹿大に赴任。鹿大と学術協定を結んでいる湖南省の湘潭大学に3年ほど前、日本語を教えに行き、少数民族の土家族を知った。翌年、土家族を訪問し、「茅古斯」というお祭りを見

「わらをかぶって豊作を祈る踊りなのですが、これが知覧町の『ソラヨイ』という祭り

広大な中国にロマンを感じて 日本と少数民族の関わりを研究



とそっくりなんです」中国語は、「主語十述語十目的語」だが、土家族は「主語十目的語十述語」で文法も似ている。最近では、雲南省の少数民族の村で、鹿児島の焼酎づくりで使ってきたような蒸留器が見つかったという記事も南日本新聞に掲載されたばかり。

「日本の文化のルーツは、中国の少数民族にあるのでは」と力が入る。

こんな東さんのスト



土家族の茅古斯

レス解消は、温泉めぐりとテニス。レストラオンが併設された川上町のみどり温泉がお気に入り。温泉めぐりで鹿児島島の地理を覚えたほど。

「中国4000年の歴史に、ロマンを感じます。これからも、日本と少数民族の関わりを研究していきたいですね」と夢は広がる。